

# 各支部・分会から年頭挨拶

地域闘争の前進を糧に組織強化・拡大に向け  
二〇一八年、港合同一丸となってがんばろう！

## 田中機械支部

慧眼（けいがん）

「歴史とは過去と現在の絶え間ない会話である」

よく引用されるEHカーの箴言ですが、米国大統領選挙や英国のEU離脱もしたフエイク（偽）ニュースが氾濫する今日において、客観性のある真実を

求めるには、現代を一年単位の時間軸で遡って検証するのも意味のある所かと思えます。

そこでいまを遡る一〇年前の二〇〇八年を概観すると、前年から始まった資産価値の乏しい住宅ローン証券化したサブプライムローン問題から世界経済が不安定化し九

月のリーマンブラザーズの倒産に行きつく「二〇〇年に一度の信用の津波」（米連邦準備制度理事会グリーンズパン議長・・当時）に襲われ、世界同時金融危機に陥った年でした。

自動車・電機などをはじめとする大企業を下支えしてきた派遣や期間工などの不安定雇用労働者は「景気の調整弁」とし

ていとも簡単に「雇止め」され路頭に迷いました。

先進各国も金融緩和と政策で市場への資金供給や金利の調整で景気浮揚に懸命となりました。

そのつげは大きく、現在EU諸国や米国は金融緩和から抜け出すスタートを切り、また実際に走り出しているにも関わらず、我が国はいまだマイナス金利や国債の購入など、借金を積み上げながら、じゃぶじゃぶの金融緩和で、デフレ脱却の糸口がなかなか見いだせない状況です。

さらにその一〇年前の一九九八年は前年の山一證券、北海道拓殖銀行の

組織を強化拡大し、階級的労働運動の発展をめざそう！

破たんが続く、日本長期信用銀行が破たんし、日本経済はバブル崩壊後の不良債権処理の荒波の中でもまれ続けていました。

一九八八年は不動産バブルが勢いを増し、翌八九年大納会での日経平均株価史上最高値三万八千九百十五円を頂点に崩壊に転じる「失われた二〇年」へのとば口ともいえる年でした。

そして一九七八年は造船不況や鉄鋼不況の中、鉄鋼独占、三菱銀行、関経協（いずれも当時）の政治的思惑の前に田中機械が自己破産を申請した年です。

この年以降、十一年に

わたる田中機械支部の自己破産突破闘争が続けられました。

紙幅の関係で詳述は控えますが、田中機械をはじめ港合同の幾多の破産倒産闘争は、そのほとんどは中小零細企業ではあるものの、使用者は労働組合の存在を常に意識しながら、例えば親会社との再編から支援の打ち切りを奇貨としたり、不況下での受注減からの倒産など、前記日本経済の動向と陰に陽に関連づけられてきたのです。

いま一九六五年から七〇年にかけての高度経済成長期に達成した「いざなぎ景気」といわれた好

況期をすでに月数では上回る「いざなぎ越え」といわれる景気動向指数が確認されていると巷間言われています。

実感なき景気拡大との声もありますが、それは企業の内部留保が過去最高（四〇六兆円）を記録し、一方市井の人々は少子高齢化社会から将来が見通せず、消費手控えが続く動向の証左といえるものです。

景気は循環するがゆえ



謹賀新年

皆様には健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

に、ある時には拡大し、またある時には縮小します。

「好況期」の恩恵に浴することなどほとんどない私たちですが、現状を注視しながら、分析することによって、必ず来る景気の下降局面に対応する胆力を練りながら、さらに発生する様々な社会矛盾に対応する慧眼（けいがん）こそが求められています。

私達が働く理美容師養成施設の業界は変わらぬ

少子化で更に厳しい経営環境です。

引き続き皆様のお知恵  
とご協力を頂き活動し今  
年も三人一致協力して危  
機感と難が去る様に粘り  
強さを持って取り組んで  
参ります。

今後ともご指導ご鞭撻

# イツツツヤ分会

昨年の3悪を考えまし  
た。

一人目は佐川元理財局  
長です。彼は森友問題で  
の国会答弁で「記憶に無  
い」「記録に無い」を連  
発し、見事に安倍夫妻の  
ワルダクミを隠し通しま  
した。そしてなんと国税  
庁長官といつこ褒美をゲッ  
トしました。本当に私た  
ちは舐められたものです

の程よろしくお願い申し  
上げます。  
今年が皆様にとって明  
るい歳になりますことを  
祈りつつ新年のご挨拶と  
致します。

ね。彼のおかげで、エリー  
ト官僚というのは自己保  
身のかたまりで簡単に人  
間の良心を捨て去れると  
いうのが良く分かりまし  
た。

新聞報道によると、こ  
の不当人事に対し、税務  
署などに抗議の声が殺到  
し、職員が頭を抱えてい  
るとのことです。これか  
ら確定申告のシーズンで、

私も毎年パソコンの画面  
とにらめっこしながら四  
苦八苦して作成していま  
すが、一度ぐらい「書類  
は破棄しました」「覚え  
てません」と言ってる  
うかな、長官様を見習っ  
て・・

二人目は小池都知事で  
はなく「希望」に雪崩を  
打って合流した人たちが  
す。どこから見ても「希  
望」は九条改憲と安保関  
連法(戦争法)を推進し、  
在日外国人に差別的政策  
を押し付ける、「維新」

と同じ完全に自民の補完  
勢力であることは明らか  
でした。加えて小池は安  
倍や稲田らの所属する、  
あの最大の極右団体「日

本会議」の元メンバーで  
す。いくら選挙に勝ちた  
いからといってそんな組  
織に身を委ねるとはあき  
れるばかりです。彼らに  
は(やや保守的な言葉で  
すが)「節操」という感  
覚はないのでしょうか？

この見苦しい顛末の結  
果、市民の不信を買い、  
小池の「排除」発言のお  
かげ(?)もあり「希望」  
が失速したのは当然の結  
果ではなかったでしょ  
うか。

三人目はもちろん安倍  
晋三です。安倍は私たち  
が一番問題にしている  
「モリ・カケ」には国交  
省や財務省に責任を押し  
付け、素知らぬ顔を続け、

共和国（北朝鮮）をことさら敵視し、これを「国難」と称し、差別排外主義を煽り、多くの票をかすめとりました。そして多くの主要国が「対話」を求めているにもかかわらず「対話より圧力」を叫び続け、十一月二〇日のトランプ大統領の「テロ支援国家の再指定」の際にもいち早く支持を表明し、私たちをより危険に晒しています。

います（麻生太郎に教えてもらったのかな？）。まさに安倍の存在が一番の「国難」ではないでしょうか。

「安倍さんを元気にさせた北の危機」（新聞川柳より）

さて今年はまだ何人の

サンコー分会

ワルが登場することやら・九条改憲、辺野古、フクシマ、原発そして農地強奪と闘う三里塚、闘いが連続していますが、絶対に「安倍一強」に負けるわけにはいきません。体調に気をつけてがんばりましょう。

あけましておめでとう  
ございます。

昨年、大阪も日本も世界もなにやらきな臭い情勢になったと感じざるをえません。

今年、再び大阪都構想が復活される兆しです。し、憲法九条が改憲され

ようとしています。  
オリンピックや万博の誘致でごまかしても、私たちの生活環境が改善されることはとても思えません。

昨年よりもさらに好くない状況になってしまっているのではと考えてしまいます。

南大阪平和人権連帯会議  
団結旗開き

◇日時：2018年1月23日(火)18：45より  
◇場所：田中機械ホール

組織を強化拡大し、階級的労働運動の発展をめざそう！

しかし、多くの地域でこのままではいけないと思う方々がいらっしやる

法を生かす全国統一署名(三〇〇〇万人署名)です。

今までは考え方が違う意見が違ふという事で反目しあってた人々が集まりつつあります。

私もこれに賛同し、一人でも多くのかたの賛同と協力をとりつけていきます。

ここに従来にはない展望があると感じています。こういった方々が一致して提唱しているのが「安倍九条改憲NO!憲

と港合同の闘いに全力で取り組んでいく所存です。どうかよろしくお願いいたします。

### アートアド分会

新年おめでとうござい

倍自民党が圧勝し、今年

毎年、年賀状を書いた

越せてこそ闘うことのできるのです、そういう意味ではめでたい、ですよね?

今年も反原発、「戦争法」違憲訴訟、もちつき

実行委員会の活動を頑張っています。

### コーヨー急送分会

「流されない!!」苦に耐え、煩に耐え。闘争から逃走した者たちを優遇し地位、カネを与える経営陣。

地位とカネに優遇され恵まれるとしがみつき現場の労働者をかろく傍観する者たちにも団交など手法用いて、港合同分会員として今年も成功とは違うハッピーの道を見つけてみます。

### 南労会支部

法律が定めた介護保険制度の目的について思うこと

「自己管理」「自助努力」ということが強調され、制度を利用しないこと、すなわち「卒業」が制度の目的であるかのように

今、介護保険制度について、制度を利用する人々の「自立」「自己責任」

いわれています。こうし

た主張は介護保険法の目的を定めた同法一条にも全く反しています。介護保険法一条には、介護保険法は、介護等を必要とする人が「尊厳を保持し」「その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう、必要な」福祉サービス等を実施するための制度であることが明記されています（なお、「尊厳を保持し」という文言は、法律制定時にはなかったもので、後からわざわざ追加されたものです）。個人人の「有する能力」には、厳然とした差があります。この差は個人の努力によって消し去ることはできま

せん。だからこそ、その差のある能力に依りて、他人の援助に頼み、尊厳を持って自立した日常生活を営むことができるよう、必要なサービスを提

供することが介護保険制度の目的であると謳われているのです。

資本主義が、永遠に続くシステムとごく自然に思えてしまう「常識」を前提にすると、個人人が自立し、自己責任で自らを自己管理し、自助努力を重ねて、立派で質の高い労働者になるために競争することは当然のように思えます。しかし、このように個人人をバラバラに捉え、その個人人が

お互いに競争することをあたりまえとする常識に、はたして普遍的な妥当性があるのでしょうか。社会認識を深めていく上で、つい受け入れてしまう「常識」とされることを疑うことは、重要な契機となります。

人間社会は、網の目にたとえられ、網の結び目（結節点）が個人人にあたることとされます。個人人は本当は「自存・自立」しているわけではなく、さまざまな結びつきや関係の中でお互いに依存しあいながら生活を営んでいるといえます。個人の自立や自助努力を強調し、個人人が常に競争するこ

## 港合同・団結旗開き

日時：2018年1月19日(金) 18時より

場所：田中機械ホール

旗開き講演：要 宏輝 氏（元大阪府労働委員会労働側委員）

組織を強化拡大し、階級的労働運動の発展をめざそう！

とを当然とする見方は、人間や社会をゆがめて捉えるものであり、人類の長い歴史から見れば、資本主義社会特有の極めて特殊な捉え方と言えるのではないのでしょうか。

介護の職場から考えると、人間というものを個人の人身に分断して労働力商品としてみる人間観を乗り越え、働けない障がい者も、認知症になった高齢者も、人として尊重される共生社会を実現することが、人類の未来の重要な課題に思えます。そのためには、社会的介護制度の実現は必要不可欠です。最後になりましたが、

橋下前市長の初審命令不履行と不当労働行為発言が弁護士としての懲戒事由に当たるとした大阪弁護士会綱紀委員会の議決書は、私たちに強力な闘

昌 一 金 属 支 部

港合同各支部・分会の仲間の皆さん、新年明けましておめでとうございます。

昨年、支部では委員長交代があり新しい体制での出発となりました。また今月から三〇才の若手組合員の加入もありました。今年も様々に困難な課題があると思います。が、港合同の一員としての自負と自覚をもって、

いの武器を与えてくれました。橋下前市長、そして、吉村市長の責任を徹底的に追及すべく奮闘します。

支部の団結で闘っていきたいと思います。

昨年は「森友・加計」に表れた安倍政権の腐敗、さらに東芝・神戸製鋼・日産・スバル・三菱マテ・東シなど製造業大手で相次いだデータ改ざん。リニア新幹線建設のゼネコン大手の談合、そして新幹線の台車亀裂の重大事故。政権や大企業が先を争って社会を食い物にし

ピョンヤン宣言のすみやかな履行と日朝国交正常化の早期実現！！

日朝友好（西・港・大正）新春の集い

▽日時：2018年2月9日（金）18：30～

▽場所：港区民センター 大ホール

組織を強化拡大し、階級的労働運動の発展をめざそう！

て自分たちだけが何の責  
任もとらず、金儲けに明  
け暮れている姿が明らか  
になりました。

その一方で労働者は長  
時間労働をはじめ、過酷  
な労働環境によって過労  
死・過労自殺に追い込ま  
れています。この四月に  
は非正規雇用労働者の無  
期転換が迫っていますが、  
すでに大学や大企業では  
その前に、三月末に有期  
雇用労働者の大量解雇を  
目論んでいます。

こうした安倍や大企業  
資本家といった連中が、  
今「北」の脅威を煽り、  
今年早期に「憲法改正」  
を発議すると言い、朝鮮  
半島をめぐる戦争をやる

うとしているのです。労  
働現場には「働き方改革」  
「一億総活躍」だと言っ  
て、労働法制を解体して  
民営化・外注化・総非正  
規化を推し進め、労働者  
をバラバラに分断して、  
物づくりの根幹を破壊し  
ています。こんな連中に  
この社会を託すことも、  
未来を任せることもでき  
ません。

やはり、社会の主人公  
たる労働者こそ、団結し  
て職場と社会の安全を守  
り、未来をつくっていく  
存在です。韓国では、民  
主労総がゼネストを闘い、  
民衆蜂起を実現して、キャ  
ンドル革命と言われるパ  
ククネ打倒を闘いとりま

した。労働組合が先頭に  
立って闘えば、大衆的怒  
りと結びつき、政権を打  
倒して、改憲も戦争も止  
められるのだと思います。

港合同は、これまでの  
長い闘いの歴史の中で、  
田中機械闘争をはじめ破  
産法突破闘争の中で、工  
場占拠・自主生産を勝ち  
とり、会社がつぶれても  
労働者が団結して職場を  
まわし、地域に連帯を求  
めれば生きていけること  
を実証してきました。

国鉄一〇四七名解雇撤  
回闘争も国家的不当労働  
行為追及の闘いとして連  
帯を貫いてきました。国  
鉄闘争を闘う事と、労働  
運動を甦らせ戦争・改憲

を止める闘いは一体です。

今また橋下前市長と維  
新の会などによる公務員  
労働運動つぶしに対して、  
都構想や入れ墨処分との  
闘いを軸に、団結権侵害  
の組合つぶしに官民連帯  
で反撃の先頭に立ってい  
ます。

我が支部は、港合同で  
は最古参の支部ですが、  
若手が多く経験も浅いの  
が実態です。港合同の数  
多い闘いの実績、闘争の  
中で得た教訓、日々の実  
践を通して学ぶべき課題  
は多くあると思います。

最後に、二〇一八年春  
闘を地域の先頭に立って  
闘います。

共にごんごんしましょう。